

平成 21 年度全国学力・学習状況調査の結果の概要(和歌山県)

1 調査の概要

(1)調査日 平成 21 年 4 月 21 日 (火)

(2)調査の目的

全国的な義務教育の機会均等と、その水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(3)調査内容

①調査を実施した学校・児童生徒

全公立小学校第 6 学年、特別支援学校小学部第 6 学年

全公立中学校第 3 学年、特別支援学校中学部第 3 学年

	「国語A」	「国語B」	「算数A・数学A」	「算数B・数学B」
(小6) 学校・児童数	267校 9,297人	267校 9,296人	267校 9,297人	267校 9,296人
(中3) 学校・生徒数	134校 8,993人	134校 9,010人	134校 9,025人	134校 9,034人

②教科に関する調査

・主として「知識」に関する問題…[国語A、算数A・数学A]

・主として「活用」に関する問題…[国語B、算数B・数学B]

③生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

・学校に対する調査

(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

2 教科に関する調査結果

(1)全国(公立)の平均正答率の状況

	小国A	小国B	小算A	小算B	中国A	中国B	中数A	中数B
H19	81.7	62.0	82.1	63.6	81.6	72.0	71.9	60.6
H20	65.4	50.5	72.2	51.6	73.6	60.8	63.1	49.2
H21	69.9	50.5	78.7	54.8	77.0	74.5	62.7	56.9
差(H21-H20)	+4.5	±0	+6.5	+3.2	+3.4	+13.7	-0.4	+7.7

○ 21 年度調査と 20 年度調査との平均正答率による単純な比較はできないが、ほとんどの教科で平均正答率が高くなっている。中学校数学 A では、やや下降している。

(2)和歌山県(公立)の平均正答率の状況

	小国A	小国B	小算A	小算B	中国A	中国B	中数A	中数B
H19	81.1	59.0	82.6	62.9	80.3	67.0	72.8	58.2
H20	64.3	47.4	72.7	48.9	71.9	57.0	64.3	48.8
H21	69.8	48.4	79.4	53.0	74.9	70.7	63.1	56.0
差(H21-H20)	+5.5	+1.0	+6.7	+4.1	+3.0	+13.7	-1.2	+7.2

- 全国の状況と比べると、小学校では、すべての教科で上昇している。中学校では、国語Bが同等で、国語A、数学Bはやや上昇している。数学Aは、下降している。

(3)和歌山県（公立）の平均正答率と全国（公立）の平均正答率との比較

H21	小国A	小国B	小算A	小算B	中国A	中国B	中数A	中数B
県	69.8	48.4	79.4	53.0	74.9	70.7	63.1	56.0
全国	69.9	50.5	78.7	54.8	77.0	74.5	62.7	56.9
差	-0.1	-2.1	+0.7	-1.8	-2.1	-3.8	+0.4	-0.9

- 小学校算数A、中学校数学Aは全国よりやや高い。それ以外については、全国よりやや低く、特に小学校国語B、中学校国語A・Bにおいてその傾向は強い。

(4)和歌山県（公立）の平均正答率と全国（公立）の平均正答率との差の比較

	小国A	小国B	小算A	小算B	中国A	中国B	中数A	中数B
H20	-1.1	-3.1	+0.5	-2.7	-1.7	-3.8	+1.2	-0.4
H21	-0.1	-2.1	+0.7	-1.8	-2.1	-3.8	+0.4	-0.9
差 (H21-H20)	+1.0	+1.0	+0.2	+0.9	-0.4	±0	-0.8	-0.5

- 全国との差を昨年度と比較すると、小学校のすべてにおいて上昇傾向にあるが、中学校においては、同等かやや下降した。

(5)平成20年度と比較した平成21年度の領域等、評価の観点における状況
(全国の平均正答率との比較)

小学校国語	小学校算数
<p>○小学校国語Aにおいては、評価の観点別正答率では、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」において改善が見られる。</p> <p>○小学校国語Bにおいては、評価の観点別正答率では、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」について改善が見られる。</p>	<p>○小学校算数Aにおいては、領域等別正答率は、「数と計算」において改善が見られるが、「数量関係」において課題が見られる。</p> <p>○小学校算数Bにおいては、領域等別正答率・評価の観点別正答率のすべてにおいて改善が見られる。</p>

中学校国語	中学校数学
<p>○中学校国語A・Bともに、平成20年度に引き続き、領域等別正答率・評価の観点別正答率のすべてにおいて課題が見られる。</p>	<p>○中学校数学Aにおいては、やや下降傾向にあるが、領域等別正答率・評価の観点別正答率のすべてにおいて国と同等またはやや上回る水準にある。</p> <p>○中学校数学Bにおいては、下降傾向にあり、評価の観点別正答率における「数学的な表現・処理」に課題が見られる。</p>

(6) 無解答率（平成20年度と平成21年度の比較）

- 小学校における無解答率は減少し、改善傾向にある。国語Bにおいては、県平均無解答率が13.1%であり、課題が残る。
- 中学校における無解答率は、改善傾向にあるが、数学Bにおいて県平均無解答率が11.4%であり、課題が残る。

3 質問紙調査の結果

(1) 【児童質問紙】

ア 問29「家で学校の授業の復習をしていますか」問30「家で苦手な教科の勉強をしていますか」問31「家でテストで間違えた問題について間違えたところを後で勉強していますか」について「している」と回答した児童の割合が、3県から4県全国より低くなっており、課題が見られる。

している (%)	県	全国	差
質問29	13.8	17.4	-3.6
質問30	16.0	19.4	-3.4
質問31	16.1	20.2	-4.1

イ 問47「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」については、昨年度よりも2.7県上昇していた。しかし、全国よりなお、2.8県低くなっている。

当てはまる (%)	県	全国	差
H20	37.6	40.0	-2.4
H21	40.3	43.1	-2.8

ウ 問62「解答を文章で書く問題について、どのように解答しましたか」、問73「言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、どのように解答しましたか」については「最後まで書こうとした」児童の割合が、昨年度の県平均と比べて2県から3県上昇している。

問62書こうとした (%)	県	(全国)
H20	62.8	(67.5)
H21	65.2	(67.6)

問73書こうとした (%)	県	(全国)
H20	63.3	(67.0)
H21	66.3	(68.0)

(2) 【生徒質問紙】

ア 問2「学校に持っていくものを、前日かその日の朝に確かめていますか」については、依然として全国と比較して9県近く低い状況である。

している (%)	県	全国	差
H20	55.9	64.4	-8.5
H21	56.6	65.3	-8.7

イ 問57「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」については、「当てはまる」あるいは「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、依然として全国と比較して10%近く低い状況にあり、「話すこと」「書くこと」に課題が見られる。

当てはまる あるいは どちらか といえは当てはまる (%)	県	全国	差
H 2 0	32.4	43.1	-10.7
H 2 1	32.4	41.8	-9.4

ウ 問37「学校の規則を守っていますか」については、「当てはまる」と回答した生徒の割合がやや高くなっているが、依然として全国と比較して9%近く低い状況である。

している (%)	県	全国	差
H 2 0	32.7	41.8	-9.1
H 2 1	35.9	44.5	-8.6

エ 問62「解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか」、問73「言葉や式を使って、説明する問題は、最後まで解答を書こうと努力しましたか」については「最後まで書こうとした」生徒の割合が昨年度と比較して、5%から6%高くなっており、記述式問において、最後まで解答を書こうとする姿勢が見られる。

問62書こうとした (%)	県	(全国)
H 2 0	58.4	(63.3)
H 2 1	64.6	(69.4)

問73書こうとした (%)	県	(全国)
H 2 0	41.6	(42.7)
H 2 1	46.8	(48.0)

(3)【学校質問紙：小学校】

平成21年度の「小学校 学校質問紙」98項目のうち、昨年度課題として取り上げた19項目について回答状況の変化を調べたところ、昨年度と大きな変化は見られなかった。

ア 問47「平成20年度全国学力・学習状況調査の調査問題を平成20年度において、第6学年や他の学年の授業の中で活用しましたか」について活用した学校の割合は、昨年度より増加した。

している (%)	県	(全国)
H 2 0	51.8	(48.6)
H 2 1	57.1	(59.8)

イ 問 9 8 「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」について、校長が校内の授業を見て回る程度については、昨年度より増加した。

ほぼ毎日 (%)	県	(全国)
H 2 0	19.5	(38.4)
H 2 1	26.5	(43.1)

(4) 【学校質問紙 : 中学校】

「中学校 学校質問紙」9 5 項目のうち、昨年度課題として取り上げた 2 9 項目について、回答状況の変化を調べたところ、昨年度と大きな変化は見られなかった。

ア 問 4 5 「平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか」について肯定的な回答の割合がやや高くなっている。

活用した (%)	県	(全国)
H 2 0	86.1	(82.9)
H 2 1	88.8	(88.7)

イ 問 2 8 「生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか」について、「よく行った」学校の割合が低下し、全国を7.2 割合下回っている。

よく行った (%)	県	全国	差
H 2 0	18.2	17.0	+1.2
H 2 1	11.2	18.4	-7.2

ウ 問 3 7 「学校や地域であいさつをするよう指導していますか」について、「よく行った」学校の割合が低下し、全国を13.6 割合下回っている。

よく行った (%)	県	全国	差
H 2 0	62.8	71.1	-8.3
H 2 1	58.2	71.8	-13.6

4 調査結果の活用

- 近日中に配付予定の「平成21年度全国学力・学習状況調査分析ツール」【和歌山県・京都府・佐賀県が開発した分析ツールの統合版】を活用し、県内すべての学校で、学力状況の把握と課題分析を行うとともに課題分析に基づいた学力向上の取組を行う。
- 「学力向上実践研究推進事業（文部科学省指定）」では、地域の実情や課題を踏まえ、学力を育成するための実践研究を推進する。【小学校5校 中学校1校】
- 「学力向上推進支援事業（教育センター学びの丘指定）」では、指定校に学力分析チームや授業改善チームを派遣し、全国学力・学習状況調査結果に基づく当該校の学力課題を分析し学校経営と授業改善を推進するための支援を行う。【小学校5校 中学校2校】
- 県内小中学校長に対してヒアリングを実施し、各市町村と学校への学力対策の指導を行う。
- ことばの力向上に関する実践事例の紹介及びフォーラムの開催による情報発信を行う。
- 学級経営に関するチェックリストを作成し、学習環境や学習規律、学習習慣の定着等に関する教員の自己チェックを行う。